



倉田小だより 6月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～



～あいさつと会話を交わすことの大切さ～

副校長 松本 仁治

今年度の4月に、倉田小学校に着任しました松本 仁治（まつもと よしはる）です。新任副校長として着任しましたので、倉田小学校についても、副校長業務についても分からないことがたくさんあります。相手方にご迷惑だろうなと思いつつも、何を質問したのかを忘れてしまうほどたくさんの質問を繰り返しながら、毎日を過ごしています。それでも、地域の皆様やPTA役員をはじめとする保護者の皆様に温かく迎えていただき、副校長としての一年目が、この倉田小学校でよかったと心から思っています。

着任してからの数日間（子ども達にとっては春休み期間中）に、学校の敷地内ですれ違った7～8人の子ども達全員が、あいさつを交わしてくれました。当たり前と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私にとっては、嬉しい驚きでした。着任式では、この倉田小学校の子ども達の様子を伝えるとともに、あいさつを交わすと、互いによい気持ちになれるので、ぜひ継続してほしいという話をしました。副校長という立場になると、あいさつだけでなく、子ども達と会話を交わす機会も減少します。それでも、新年度が始まってすぐの休み時間に、職員玄関の前にいた子ども達と会話する機会をもつことができました。さすが、倉田小学校の子ども達。彼女達から「副校長先生、こんにちは」とあいさつがあり、その中の一人が名札の「よしはる」を逆から読んで『るはしよ』って、ポケモンに出てきそう」と、切り出してきました。私はすかさず「そのモンスターは強いのか？」と聞いてみると、別の子が「弱そう！」と、即答。「いや、強そうだよ」と、中には気遣ってくれる？子も。短い時間でしたが、久しぶりに教室で過ごしているような楽しいひとときでした。

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められています。これからの社会では、正解のない問いに対して、協同的に解決策を見出す必要があるためです。この学びで大切なことは、まず自らが自分の考えをしっかりともち、そしてそれを基に友達と話し合うことで、その考えを深化させることです。したがって、他者と円滑にコミュニケーションを図りながら、考えを説明する能力が求められます。一方で、問いの意図や、相手の説明が理解できない時には、分からないということを自ら伝えることも重要だと思います。昨年度まで担任として授業をしていましたので、分からないという意思表示をしたり、疑問に思うことを質問したりすることの大切さについては、子ども達に日々伝えていました。それでも、それを行動に移すことに難しさを感じている子が、毎年クラスの中に数名いました。当然、彼らには、担任として個別に支援をしていましたが。

子ども達が様々な人達とあいさつを交わしたり、他愛のない会話を交わしたりすることは、学び合いに必要なスキルの一つだと言えます。友達や先生とコミュニケーションをとることに抵抗がなくなれば、学習中のコミュニケーションも円滑に図れるようになります。そうすると当然、相手に考えを伝えることや、相手から学ぶことが容易になります。分からないことを聞きに行くこともできるようになるでしょう。地域の皆様やPTA役員をはじめとする保護者の皆様の支えがあり、倉田小学校には、コミュニケーション能力が身に付いている子どもが多いと感じています。教職員は、その子ども達の力を最大限に発揮させながら、彼らの資質・能力の育成や心身の健やかな成長のため、また「主体的・対話的で深い学び」を実践するために日々尽力しています。私自身も縁の下の力持ちとして、あいさつと会話を大切にしながら、子ども達の成長のために尽力したいと思っています。一年間、どうぞよろしくお願ひいたします。